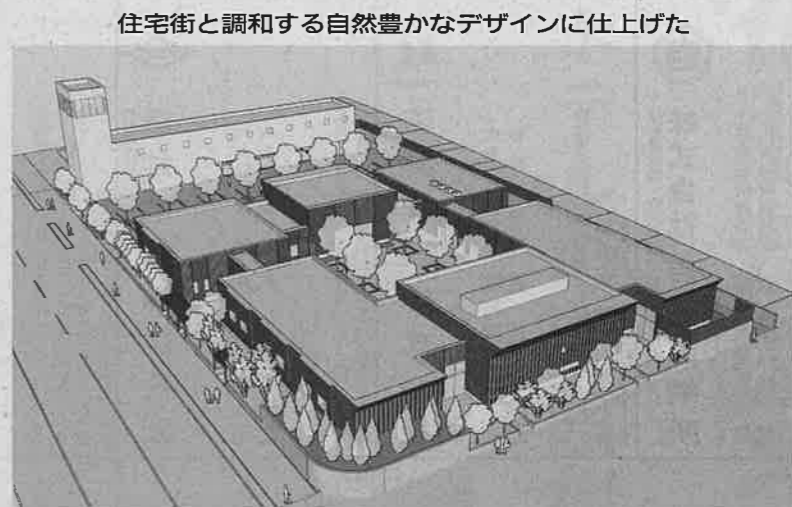


# 我が社の思い、社屋に込めて

## 移りゆく時代 十勝建設業3社が追い求める姿は

宮坂建設工業(本社・ト)W造、口の字形という帯広の新社屋は「働きたくなる職場」がコンセプトを構える。現在の執務



住宅街と調和する自然豊かなデザインに仕上げた

### W造、平屋、延べ1494㎡ 自然豊かな外観を実現

空間は本社1、2階と隣接するビルに分かれているが平屋の新社屋では1つのフロアに社員が集まる。築55年の現社屋が帯広市西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業の自走式駐車場建設地となり、新築を計画。移転先を検討し、帯広市西13条南14丁目1の2の社有地を建設地とした。



来春完成に向けて着々と

十勝管内の建設会社で、本社社屋の建て替えが進む。各社の新社屋を見ると、職場環境の改善や自然災害への備えといった機能向上に加え、地域社会との調和、建設業のイメージアップといった観点でさまざまな工夫が詰まっている。建設業が時代に合わせて追い求める社屋の姿とは。管内で完成または建築中の3社から新社屋に込めた思いを聞いた。

### 池田建設工業 風通しの良い会社

#### W造、2階、延べ463㎡ 1階はフリーアドレス



芽室町内を通る国道38号沿いに完成した

当初は机が並ぶ普通の事務所を想定していた。事務機器を扱う曹我(本社・帯広)の助言で足を運んだ札幌のショールームを見てインスピレーションを受けた。

「頂いた仕事は断らないというのが初代・池田 薫社長からの方針。当社のやわらかさ、親しみやすさを体現している」と胸を張る。

フクタ(本社・浦幌)は、道路維持業者として防災機能を強化した社屋を新築している。従業員の要望を聞いて働きやすさも改善。国道38号沿いの市街地に移転し、会社PRの役目も期待する。

防災面を強化し会社イメージ向上も図る。建設地は万年3325099平方メートル。市街地へ入る道浦幌線との交差点で、面路線は同社区間という好立地した。黒が基調の外観とし会社のシリアスを図る。

国道38号に面した芽室東工業団地内に昨年10月末、池田建設工業(本社・芽室)の新社屋が完成した。外壁の色はスチールブラックを基調とし、ガルバリウム鋼板に木目をあしらったスタイリッシュなデザインだ。設計施工は住宅で多くの実績を持つCrypton(同・帯広)に依頼した。

多く、日中は人が少ないのでスペースを生かせる形にした。席を固定していないので新型コロナウイルス対策にも効果がある」と話す。立った姿勢で気軽に会話できるカウンターは「若い人が働いてみたいと思える環境をつくりたくて」設置した。

5月には幕別町から子会社のサンテックの本社も移ってくる予定だ。違う業種がタッグを組む。仕切りのない場所で会社の垣根を越えて力を合わせてほしい」との思いもある。

気軽に会話できるようカウンターを設けた



#### W造、2階、延べ417㎡ 地震被害の教訓生かす

### フクタ 防災機能

新社屋はW造、延べ417平方メートル。施工はサントイレッシ(本社・帯広)に依頼した。工事の2階は間仕切りなく、社員同士が顔をせられるように。一